

■導入事例 1

株式会社 愛媛CATV 様

2006年10月 株式会社愛媛CATVは、本格的な光ファイバー（FTTH）サービスに向けて1芯双方向GBICを採用。

高い技術力を持つ同社の技術部門は、自設の光ファイバーを最大限に活かすシステム構成によって、最小限の設備投資で十分な帯域を確保、かつ安定して運用出来るシステムを構築しました。



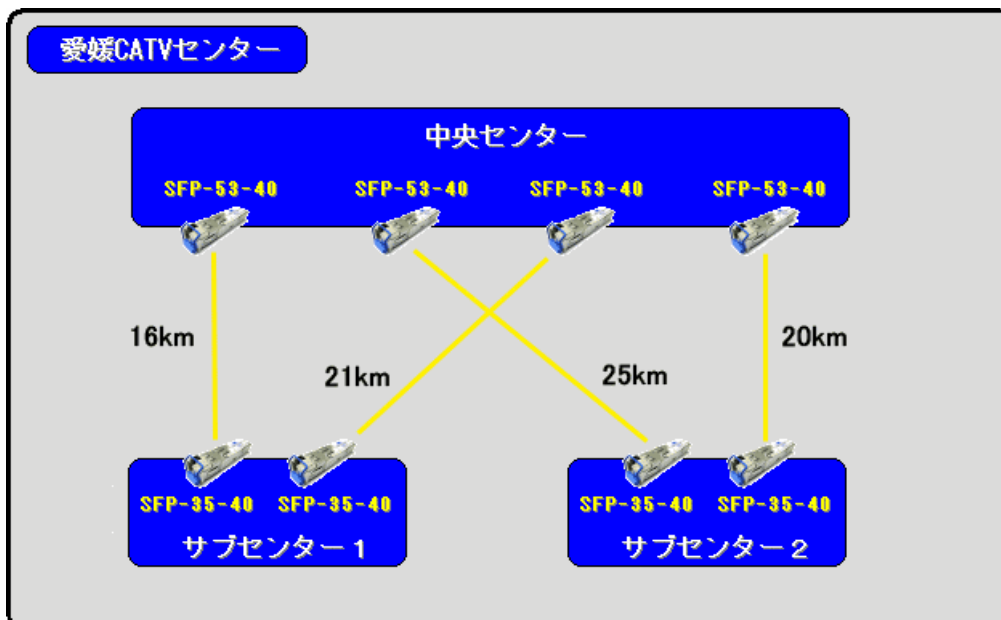
㈱愛媛CATV
技術部 松本様

■導入の経緯

「今回の1芯双方向GBIC採用までの経緯をお聞かせ願えますか？」

「今回、愛媛CATVでは、光ファイバー（FTTH）サービスの新規エリアの開局に伴い、中央センターから離れた各所に自設のサブセンターを構築することになりました。そこで必要となってきた設備の通信に光ファイバーが使用されるのですが、既に敷設されているファイバーを活用しながら十分な帯域を確保したい、その上で安定的なシステムでなければならない、という課題がありました。そこで調査した結果、注目したのが各メーカーのスイッチに使用可能なエイム電子の1芯双方向GBICです。」

図1



■導入の効果

エイム電子株式会社

〒228-0827 神奈川県相模原市磯部 1353

TEL : 046-253-6299 FAX : 046-256-5851 URL : <http://www.aim-ele.co.jp>

「採用・導入の効果をどのように感じていらっしゃいますか？」

エンドユーザー様へサービス提供を行う上では非常に重要な通信設備ですから、メディアコンバーターを使用せず、各スイッチをダイレクトに接続し、出来るだけシステム構成をシンプルにすることで障害ポイントを減らすことが出来ました。また十分な帯域を確保できたことはもとより、中央センターと各サブセンター間を1本だけの接続ではなく、各々1本ずつ(※図1)接続することで、冗長化による安定的な運用が可能になりました。これらによって総合的な運用・管理面でも非常に効率の良いシステムが構築出来たと思っています。

■導入時のエピソード

「採用・導入に際してのご苦労された点はございましたか？」

「1芯双方向の技術に問題はありませんでしたので、まずはエイム電子の担当者に技術的な確認と製品選定の相談を行いました。そして、センター間の距離と実際の減衰値やリンクバジェットのデータを確認しながら、距離数に応じた製品ラインナップの中から40kmタイプを選択、リンクバジェットに余裕を持たせることで、万が一の外部環境変化やシステム変更などによる再構築にも耐えられるようにしています。製品の決定後は、貸し出し検証機器による事前テストを行い、テスト完了の後、導入となりました。ただ検討当初は機器の保守が可能なベンダーが少なかったのですが、エイム電子や各販売店の対応で、そこもクリアできましたので問題は改善されています。」

■エイム電子コメント

「今回は快く取材にご協力頂きまして誠に有難うございました。また現在では各販売チャネルからの保守契約の体制も強化され、よりスムーズな対応が可能となっております。」

■株式会社愛媛シーエーティヴィ (愛媛 CATV)

<http://www.e-catv.ne.jp/>



<事業目的>

松山市を中心に CATV 施設を敷設し、多彩な専門番組と豊富な地域番組を提供し地域文化の向上に貢献するとともに、高度情報化社会に向けての通信基盤の整備を図る。このため平成 2 年 9 月 7 日に松山地方生活文化経済圏テレピア計画に愛媛 CATV の計画が組み入れられている。

<事業計画と現状>

総務省から許可されたサービスエリアは 22 万世帯が居住する地域。敷設したケーブルは延べ 1,700Km を超える。設備端子数は 83,120。加入契約を結んだ上、1 軒 1 軒に引き込み工事をしていく。また大容量高速通信を可能とする FTTH サービスを本格的に開始、今後、更なる加入者増が見込まれる。



エイム電子株式会社

〒228-0827 神奈川県相模原市磯部 1353

TEL : 046-253-6299 FAX : 046-256-5851 URL : <http://www.aim-ele.co.jp>